

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成27年12月31日現在

今月の重点活動

■祝だいこん 出荷始まる

12月17日に、祝だいこんの目揃会が開催された。今年は、は種時期が例年より早く、気温の高い期間が長くなったことなどから、例年より太く、長い祝だいこんになっている。

消費者や市場のニーズは、従来の3本束出荷から2本束、バラなどの少量購入に加え、太くてボリュームのあるものに変化してきており、市場からの要望量は昨年をやや下回る約24万束(3本換算)となった。これを踏まえ、今年は昨年に比べ、太く、長い規格に変更となった。

農業普及課からは、今年の実験経過、生育調査の結果概要を情報提供し、GAP点検項目(選別基準・出荷規格の遵守など)について指導した。12月21日~28日までの期間限定で大阪市場に出荷され、関西のお正月には欠かせないお雑煮の具材として使用される。
(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【目揃会での指導の様子】

売れる農畜産物づくり

■小麦 巡回調査を実施

12月14日、農業普及課の麦担当者と関係機関(JA全農岐阜、農薬メーカー)により、管内の小麦ほ場(岐阜市、羽島市、本巣市、北方町)に設置した除草剤及び肥料の実証ほ場の巡回調査を実施した。

農業普及課では、平成28年産小麦においても関係機関と連携し、管内のイタリアンライグラス対策のための除草剤実証ほを5カ所、タンパク向上や省力化のための肥料実証ほを8カ所設置しており、今後は残草調査、生育調査を実施し、実証試験の実用性について検証する。

(地域支援第三係・岡田隆史)



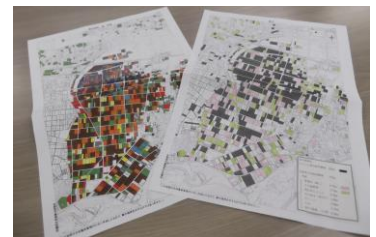
【小麦巡回調査】

■にんじん 農地利用集積を支援

農業普及課・各務原市・JAぎふでは、にんじん生産者の規模拡大要望を早期に達成するために農地集積を支援しており、貸借希望の多い鵜沼地区の作付調査を実施し、貸借の可能性のある農地の地図化や面積の把握を行ってきた。

本地区だけでは、面積が不足することが分かり、今後も農地貸借のマッチングや他地区の調査を行い、農地集積を支援していく。

(地域支援第二係・魚住雅信)



【作付調査図】

■伊自良連柿 伊自良連柿講習会を開催

12月10日、伊自良連柿講習会が行われた。伊自良連柿は、昔から当地域を中心に栽培されている渋柿「伊自良大実」を使い、竹串とわらで1連30個に編み上げ、家の軒先に吊るして作られ、直売所や個人での注文などによって販売されている。

農業普及課は、箱詰め前の検品での注意点や食品表示の方法、冬場の栽培管理について指導した。また、農業振興課の鳥獣被害対策専門指導員から、侵入してくる鳥獣の種類を把握することで、効果的に対策を行うことが出来ること等について情報提供を行った。

(地域支援第三係・小椋正大)



【講習会の様子】

戦略的な流通・販売

■アスパラガス 第5回産地戦略会議を開催

11月30日、第5回アスパラガス産地戦略会議を開催した。農業普及課から、アスパラガス産地振興プロジェクト案の対応策と実施時期の修正点を説明し、役割分担や活動スケジュールについて確認した。また、今後も精力的に産地振興を進めるため、産地拡大プロジェクトチーム(仮称)の立ち上げを提案し、活動体制や構成員など、選果機の整備や営農組合への導入説明会などの具体的な活動につ



【産地戦略会議の様子】

いても検討を行った。

今後、農業普及課では、プロジェクトチームを立ち上げ、具体的に活動を進めるとともに、各対応策の進捗状況の確認と目標達成に向けた進行管理などの支援を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・藤田文彦)

■いちご **第6回産地戦略会議を開催**

12月11日、第6回いちご産地戦略会議を開催した。農業普及課から、岐阜いちご産地ビジョン(素案)の概要を説明し、現状と課題、5年後の目標(栽培面積、単収など)、目標を達成するための方策について協議した。

産地ビジョン(素案)について、JAからは、「5年後の新規就農者の単収目標が高すぎるのではないか?」「将来的に4品種をどう集約していくのか?」「単収を増やすだけの長期穫り栽培は現実的ではない」など、多くの意見が出された。

今後、農業普及課では、JAからの意見を集約し、産地ビジョン案を作成し、いちご産地を維持、拡大できるよう普及活動を展開していく予定である。

(園芸産地支援第一係・渡辺新一、遠藤るみ子)



【産地戦略会議の様子】

多様な担い手の育成・確保

■かき **平成28年度研修生募集説明会を開催**

11月28日、丸糸柿振興会では、平成28年度の柿研修生募集説明会を開催するとともに、柿栽培を実感してもらうため、収穫体験と選果場見学も実施した。参加者2名に対し、丸糸柿振興会(本巣市管内)の柿栽培の状況、柿栽培モデル、募集要項等について説明した。今後、募集締切時までの問い合わせには、個別に対応することとしている。

また、研修生募集説明会に併せて、青年企画部の協力により、地元農産物である柿の魅力を知ってもらおうと、岐阜大学学生対象の収穫体験も行った。8人の参加者からは、柿栽培について多くの質問が出され、生産者との会話が弾んでいた。今後の継続的な交流については、青年企画部会議の中で検討することとしている。

(園芸産地支援第二係・鷲見彩子)



【収穫作業の説明】

■青年農業士 **能力向上セミナー開催**

11月26日、岐阜県青年農業士連絡協議会主催の能力向上セミナーが開催され、疲労回復研修では、「農作業の安全確保について～効率的な疲労回復～」をテーマに農作業での疲れに効く体操を学んだ。また、ワークショップでは、「就農開始から今まで変わったこと、10年後どう変わるか変わっていきなきゃならないか」をテーマに、活発な意見交換が行われた。

今年度は、岐阜地域青年農業士会が当番であり、事前に十分な検討を重ね、当日の進行も自ら行うなど、事業の企画運営に携わる良い機会となった。農業普及課は、事務的な支援を行った。

(地域支援第一係・稲葉千佳)



【ワークショップの様子】

県民みんなで育む農業・農村

■かき **かき生産者が自ら行う獣害対策を支援**

今年、岐阜市網代地区のかき生産者6名が罝猟免許を取得したが、狩猟者登録、猟具の確保、獲物の処理などの問題もあり、取得した罝猟免許が有効に活用されていない現状にある。そこで、12月8日に、罝猟免許取得者を集め、鳥獣被害対策専門指導員によるくくり罝の研修会を開催した。

これまで重点支援してきた円蔵洞地内において、ニホンジカを捕獲するため、鳥獣被害対策専門指導員があらかじめ餌づけした場所に、くくり罝を設置し、かき生産者は補助者として実地研修を行った。翌朝には、ニホンジカが捕獲され、鳥獣被害対策専門指導員が止め刺しを行い、かき生産者も解体作業を行ったが、止め刺しや解体には抵抗があるようで、今後は「食べて美味しい」をPRしながら、捕獲の推進を図っていく。

(園芸産地支援第二係・青山 哲)



【くくり罝研修会の様子】